報道関係各位　　2025 年 11 月吉日

アンチ・アクション
彼女たち、それぞれの応答と挑戦

東京会場、12 月 16 日（火）より開幕！
出品作品や本展を知るためのキーワード、グッズのご紹介

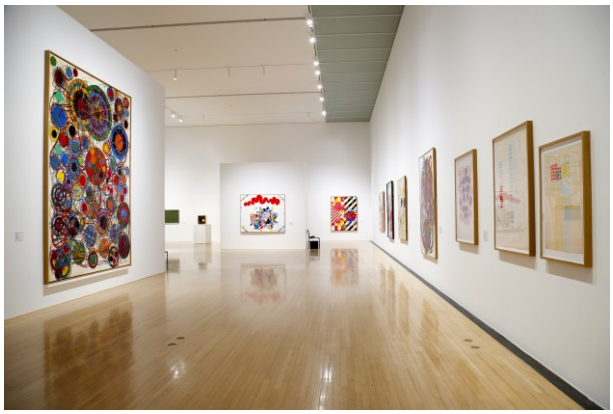
東京国立近代美術館では、12 月 16 日（火）より「アンチ・アクション　彼女たち、それぞれの応答と挑戦」を開催します。開幕に先駆け、本展をよりお楽しみいただくため、出品作品の見どころやオリジナルグッズなど関連情報をご案内いたします。この機会にぜひご紹介のほど、よろしくお願いいたします。

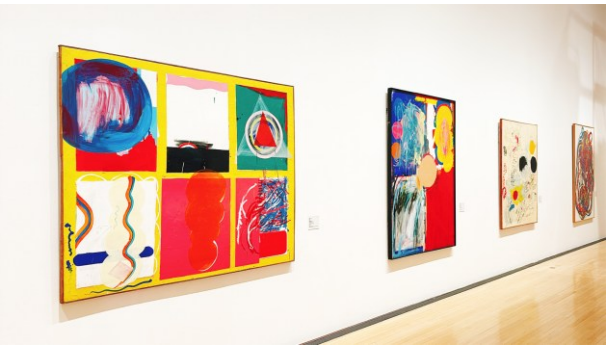
展覧会概要

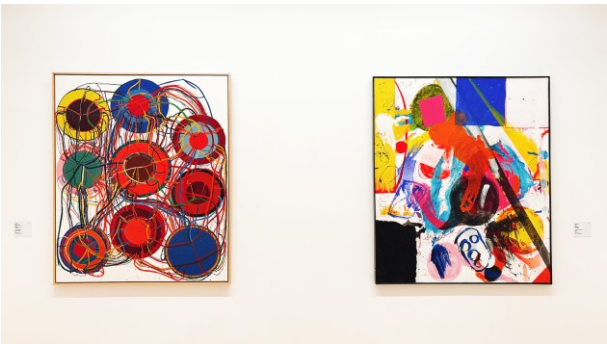
本展は、**1950 年代から 60 年代にかけての女性美術家たちの創作活動を「アンチ・アクション」というキーワードから見直し、日本の近現代美術史の再解釈を試みる企画**です。

当時、日本では短期間ながら女性美術家が前衛美術の領域で大きな注目を集めました。これを後押ししたのは、海外から流入した抽象芸術運動「アンフォルメル」と、それに応じる批評言説でした。しかし、数年後に「アクション・ペインティング」という様式概念が導入されると、女性美術家たちは如実に批評対象から外されてゆきます。豪快さや力強さといった男性性と親密な「アクション」の概念に男性批評家たちが反応し、伝統的なジェンダー秩序の揺り戻しが生じたのです。

本展では**『アンチ・アクション』(中嶋泉[本展学術協力者]著、2019 年)のジェンダー研究の観点を足がかりに、草間彌生、田中敦子、福島秀子、山崎つる子、白髪富士子ら 14 名の作品およそ 120 点**を紹介します。本展が、同時代の美術史研究の成果を広く紹介するとともに、多くの方にとって作品あるいは作品の評価というものの見え方をさらに豊かにする機会となることを願っています。







「アンチ・アクション　彼女たち、それぞれの応答と挑戦」豊田市美術館 展示風景
（上 2 点）撮影：山本理太郎

作品紹介

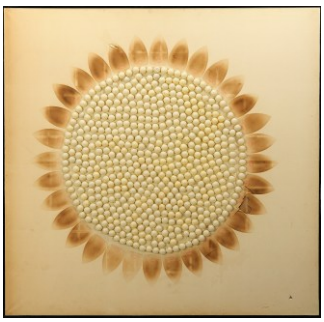
本展の出品作品には、筆で描くほかにさまざまな制作手法や素材が用いられています。「アクション」の時代に、それぞれの作家が試みた実に多彩な制作行為＝それぞれの（アンチ・）アクションにぜひご注目ください。

◉福島秀子《ホワイトノイズ》1959 年
油彩・カンヴァス　栃木県立美術館蔵

（部分）

スタンプのように「捺す」

◉田部光子《作品》1962 年
ピンポン玉・紙（襖）　福岡市美術館蔵



（部分）

アイロンで「焼く」

◉多田美波《周波数 37303055MC》1963 年
アルミニウム　多田美波研究所蔵　撮影：中川周

金属板を「叩く」

高さ 3.3m

天井高に迫る、
ダイナミックな作品も見どころ！

◉田中敦子《地獄門》1965-69年
ビニール塗料、アクリル・カンヴァス
国立国際美術館蔵

本展を知るためのキーワード

アンフォルメル

第二次世界大戦後、フランスを中心に隆盛した抽象芸術運動。伝統的な形式に依らず「未定形」をめざす制作や、偶然性・素材の抵抗を重視する。日本では 1956 年の「世界・今日の美術展」で紹介され、翌年には運動の提唱者であるフランスの批評家ミシェル・タピエが来日し、のちに「アンフォルメル旋風」と呼ばれるブームを巻き起こした。タピエは福島秀子や田中敦子らほとんど無名だった女性美術家を積極的に取り上げ、彼女たちを新潮流の担い手として紹介した。本展はその熱気のただなかにいた女性美術家たちの仕事に光を当てる。

アクション・ペインティング

1940 年代から 50 年代にかけてアメリカで発展した抽象絵画の様式概念。アメリカの批評家ハロルド・ローゼンバーグが 1952 年に提唱し、絵を描く「行為（アクション）」を重視する。「アンフォルメル」が一時的な旋風にすぎなかったとみなされた 1960 年代以降の日本では、ジャクソン・ポロックに代表される床置きのカンヴァスに絵具をまき散らす制作行為やパフォーマンスへの関心が高まった。豪快さや力強さといった男性性と親密な「アクション」の概念に男性批評家たちが反応したことで、女性の前衛美術家たちはわずか 2〜3 年で批評対象から外されていく。

アンチ・アクション

日本では男性の美術家を中心に語られてきた「アンフォルメル絵画」や「アクション・ペインティング」に対し、女性の美術家たちの反応や応答、異なる制作による挑戦を論じるため*に、中嶋泉氏[本展学術協力者]が、著書『アンチ・アクション―日本戦後絵画と女性画家』（ブリュッケ、2019年／『増補改訂 アンチ・アクション―日本戦後絵画と女性の画家』筑摩書房、2025年）において考案した用語。本展ではこのコンセプトを起点に、1950年代から60年代に主に抽象絵画で注目された女性美術家たちの創作活動を検証し、その差異や多様性を紹介する。

*本展図録 中嶋泉『「アンチ・アクション」――女性の美術家と日本の戦後抽象画』より

展覧会オリジナルグッズ

出品作品をモチーフにした、ヴィヴィットな色彩が印象的なオリジナルグッズも各種ご用意しております。
作品の持つ奔放さや力強さ、エネルギーをぜひお持ち帰りください。

トートバッグ　税込 4,400 円（全 2 種）

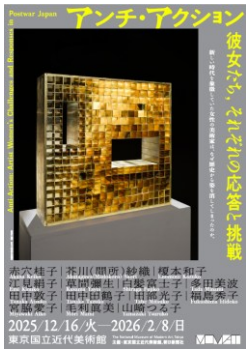
T シャツ 税込 3,850 円（全 2 種）

一筆箋　税込 550 円（全 2 種）

クリアファイル　税込 495 円（全 2 種）

開催概要

展覧会名｜**アンチ・アクション　彼女たち、それぞれの応答と挑戦**
英語名称｜Anti-Action: Artist-Women's Challenges and Responses in Postwar Japan
会　　期｜2025年12月16日（火）～2026年2月8日（日）
会　　場｜東京国立近代美術館1F企画展ギャラリー
休 館 日｜月曜日（ただし1月12日は開館）、年末年始（12月28日～1月1日）、1月13日
開館時間｜10:00～17:00（金曜・土曜は10:00～20:00）
観 覧 料｜一般2,000円（1,800円）大学生1,200円（1,000円）
東京国立近代美術館（当日券）、公式チケットサイト(e-tix)にて販売。
＊いずれも消費税込。
＊（）内は20名以上の団体料金。
＊高校生以下および18歳未満、障害者手帳をご提示の方とその付添者(1名）は無料。
それぞれ入館の際、学生証等の年齢のわかるもの、障害者手帳等をご提示ください。
＊本展の観覧料で入館当日に限り、同時開催の所蔵作品展「MOMATコレクション」(4-2F)もご覧いただけます。
主　　催｜東京国立近代美術館、朝日新聞社
お問合せ｜050-5541-8600（ハローダイヤル）
展覧会サイト｜https://www.momat.go.jp/exhibitions/566



＊本リリースの掲載画像をご希望の方は、下記広報事務局までご連絡ください。

《報道関連のお問合せ先》
「アンチ・アクション展」広報事務局（ユース・プラニング センター内）　担当｜片山・渡邊・池袋
〒150-8551 東京都渋谷区桜丘町 9-8 KN 渋谷 3 ビル 4F
電話｜03-6821-8466　FAX｜03-6821-8869　E-mail｜antiaction@ypcpr.com